

平成 22 年度公立高校入試問題の傾向 英語

近年の公立入試を出題パターン別に見ていくと、読解問題に次いで英作文が多く出題されている。また、最近は特に「活用力」・「表現力」が謳われるようになり、英語の入試において今後ますます「英作文」の出題が増加、あるいは難化し、きちんとした対策が求められることとなるだろう。

H22年度 「英作文」について

●出題率と指定文字数

47 都道府県のうち約 85%の県で「英作文」が出題されており、昨年の 80%と比較すると増加傾向にあることがわかる。指定文字数は、5 文以上や 40 語程度と長めの県もあるが、2～3 文程度、あるいは 10～20 語程度で答えるよう指定している県が多い。

●出題テーマ・出題形式

ここ数年と同様に、日常生活や学校生活に関するテーマの出題が圧倒的に多い。

これらについて「自分の意見や考えを、理由を含めて述べる問題」の出題が全体の 45%を占めており、日頃から自分の考えを簡潔にまとめ、表現する力の育成が求められている。

その他、イラストの内容の流れに合う英文を書く問題や、メモや資料の内容を読み取って書く問題なども例年同様に出题されている。

出題形式 トップ 3	出題県数
意見や考えを述べる	19
中学の思い出を述べる	6
イラストの流れに合った台詞を考える	4
メモや資料を読み取る	4

◎「活用力」と「表現力」の育成

英作文には、「活用力」と「表現力」が必要不可欠である。

英作文対策としては、英作文問題に多く取り組み「表現力」を育成することに加え、語順整序や書きかえ問題など「活用力」（＝文章構成力）が身につく問題を多く解くことが効果的である。

好学出版英語科では、新刊のウイニング・ウイニングプラスでも実現したように、英文法の理解・定着を図るだけでなく、英作文対策として「活用力」・「表現力」の育成にも力を入れた教材制作を行っていきたい。